

2020年度 活動報告概要

1. 活動概要

- 1) 第1回学術技術交流会(2020/6/8:LSI メディエンス) 中止(COVID-19による)
- 2) 第2回学術技術交流会(2020/9/8:京都) 参加(守谷)
- 3) 第3回学術技術交流会(2020/11/30-12/1:福島) 参加(守谷)
- 4) 総会・第4回学術交流会(2021/3/12:LIXIL WINGビル) 参加(守谷、渡邊)

2. 外部発表(2020年度)

以下の外部発表を実施または予定。例年開催していたワイヤロープ研究会はCOVID-19感染リスクを考え、今年度の大会は中止となった。

- 1) 永久磁石式全磁束法による非破壊検査:2020年度土木学会全国大会
- 2) Non-destructive Evaluation for bridge cables by Permanent Magnet Type Magnetic Main Flux Method, IABMAS SAPPORO2020(昨年開催が今年4月に延期中)

3. 賢材へ取組み

弊社はワイヤロープをはじめとするロープ・ケーブル類の総合メーカーとして、「Total Cable Technology の追求」を中長期ビジョンとして掲げている。ロープは細いものはタイヤの補強材(素線径 0.2mm程度)から、太いものは吊り橋用メインケーブル(直径約 1m)まで、幅広い範囲の製造、スチールからスーパー繊維、炭素繊維と材料の多様性及び点検・維持・メンテナンスを含めたサービスまで提供している。

近年では炭素繊維複合材ケーブル(CFCC)は、高強度、高弾性、軽量、高耐食性、非磁性、低線膨張、柔軟性という特長を生かしコンクリート補強材や電線の補強材として、グローバルに適用が拡大している。

また、我が国におけるインフラは相当の使用年数が経っており、劣化が始まっている。その状況を評価できる診断方法の開発・適用を進めている。さらに、今年度はNEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)より、開発委託を受けて、「規制の精緻化に向けたデジタル技術の開発/高精度センサーを用いたエレベーターの定期検査に係る技術開発」を行っている。現在、目視や人の手で行っている検査をカメラやセンサーに置き換える基礎実験を行っている。

今後も多岐にわたって、ケーブル(ロープ)とその周辺技術により、安心・安全な社会を支え、SDGsを推進し、ゆとりのある環境作りを進めていく。

4. その他

今年はNHK大河ドラマで、「青天を衝け」の放送が始まり、渋沢栄一にスポットが当たっております。弊社も渋沢が起こした会社の1つで、渋沢は初代会長についています。弊社では、「共存共栄」を理念として、今後も社会貢献を継続してまいります。

以上